



# 日本デザイン学会の活動内容

青木 弘行\*

## Activity Report of Japanese Society for the Science of Design

Hiroyuki AOKI\*

**Abstract**— The Japanese Society for the Science of Design was founded in 1953, and has currently over 2,500 members. The JSSD has been continuing the transdisciplinary studies from the beginning of establishment. We have regarded that the design studies are the value creation behavior for contributing to a human life and life culture. We are now the driving force behind International Association of Societies of Design Research. Although the field of design studies has been expanded and evolved with times, the further progress will be required at the time of the 60<sup>th</sup> anniversary.

**Keywords**— design, transdisciplinary, value creation

### 1. 設立の背景

戦後の混迷期を脱した1949年頃から世界各国において様々なデザイン運動が復活・展開し始めた。我が国においても、昭和26(1951)年に日本宣伝美術協会(日宣美)、昭和27(1952)年に日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)といった職能団体が結成された。一方、輸出振興を目的として開設された工芸指導所は、それまでの指導という体制から研究重視へと舵を切り、昭和27(1952)年に工業技術院産業工芸試験所に改組された。一般社会においては、デザイン問題に対する関心が高まりをみせ、デザインブーム到来の様相を呈していた。本学会は、このような状況の中、学としてのデザインを標榜して昭和28(1953)年7月に設立された。

デザインという領域は、その特質上様々な専門分野を横断する学際的性格を有しており、設立当初から人文科学・自然科学・社会科学を横断する文理融合的な研究や理論構築がその使命として課せられた。この年は新制大学デザイン科の第一回卒業生が世に出た時期とも符合しており、学界、職能団体、産業界、ジャーナリズムが一体となった組織の設立が目標であった。

### 2. 学会概要と活動内容

デザインという行為は、世間一般には技術的成果の内容を形や色に翻訳して美的に表現する「形状創造行為」

と理解されている。しかしながら、デザインの定義は科学技術の進展に伴って拡大し、今日では人間生活や生活文化に貢献する「価値の創出行為」と理解されている。学会設立当初は人工物を研究対象としていたのであるが(モノのデザイン)、1980年代に入るとモノだけではなくコトの重要性が指摘され(コトのデザイン)、両者を融合させる研究テーマが探求され今日に至っている。横幹連合における当学会のキャッチフレーズが「モノからコトまでの創造性を科学する」となっているのは、このような時代経過を踏まえているからである。

当学会における現在の研究領域を大別すると、以下の三つに要約できる。

- 人間とデザインの歴史や文化：  
文系的なアプローチで、デザイン教育も含まれる。
- デザインの科学と技術：  
人間工学、材料計画、心理学、色彩学、感性工学、デザインマネジメント、CAD、CG、設計方法論など。
- 計画と設計：  
大別すると、工業デザイン、グラフィックデザイン、環境デザイン、クラフトデザインなどの領域があり、これらの領域は職能として成立している。近年ではこれらの職能を横断するかたちで、エコロジカルデザイン、インタラクションデザイン、ユニバーサルデザインなどが検討されている。

一方、今期は基本方針「デザイン学のさらなる普及と活用に向けて」のもと、形・機能・情報の関係性をメディアとして捉え、心地よく希望が持てる心の状態をデザインすべく、検討を重ねていく予定でいる。人間社会が生み出す人工物すべてが「人の心にどのように響くのか」

\*千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻 千葉市稲毛区弥生町 1-33

\*Division of Design Science, Graduate School of Engineering, Chiba University, 1-33 Yayoicho, Inage-ku, Chiba-shi, Chiba

Received: 10 January 2013

といった基準で評価される今日的状況下、従前にも増して複合的・横断的な研究領域拡大を指向していく必要がある。

当学会の概要は以下の通りである。

□ 会員数

正会員 2,150 名, 学生会員 260 名 (昨年 4 月制度化), 賛助会員 50 名, 年間購読会員 63 名

□ 会員構成

教育機関 70 %, インハウス (企業内) デザイナー 20 %, フリーランスデザイナー 7 %, 官公庁 (通産省, 工業技術センターなど) 3 %

□ 年会費

正会員 13,000 円 (入会金 5,000 円), 学生会員 6,500 円 (入会金免除), 賛助会員一口 10,000 円 3 口以上, 年間購読会員 25,000 円

□ 支部組織

第 1 支部 (北海道・東北地区), 第 2 支部 (関東地区), 第 3 支部 (北陸・中部地区), 第 4 支部 (近畿・中国・四国地区), 第 5 支部 (九州・沖縄地区)

■ 活動内容

□ 研究部会:

現在, 以下の 16 部会が活動を行っている (設立順)。

用語部会, 教育部会, メディア&デザイン部会, デザインサーベイ部会, 家具・木工部会, プロダクトデザイン部会, 環境デザイン部会, デザイン史部会, デザイン理論・方法論部会, ファッションデザイン部会, 情報デザイン研究部会, 創造性研究部会, タイポグラフィ部会, サービスイノベーションデザイン研究部会, バイオメディカルデザイン部会, プロモーションデザイン部会

□ 刊行物の出版:

4 種類で構成される学会誌「デザイン学研究」を年間 12 冊発刊している。

論文集 (6 冊), 特集号 (4 冊), 作品集 (1 冊), 春季研究発表大会梗概集 (1 冊)

これら刊行物は, J-Stage (総合電子ジャーナルプラットフォーム), CiNii (論文情報ナビゲータ) によりオンラインジャーナル化。

「論文集」は, 年間約 70 件の研究成果 (論文, 報告, 論説) を掲載し, 「特集号」は研究部会が主体となり, 会員にとって有益かつタイムリーな話題を編纂している。近年刊行された特集号のタイトルを以下に列挙する。デザインから考える: 東日本大震災の現状と課題, 新たな社会づくりのためのデザイン, シミュレーション&プロトタイプ 工学知とデザイン知,



Fig. 1: Annual design review of JSSD

タイポグラフィの史的・研究, 地域デザインを考える, エコデザイン, ヒューマンセントードデザイン, デザイン学: メタデザインへの挑戦

一方, 当学会を特色づける刊行物として, 平成 7 (1995) 年から発刊されている「作品集 (Fig. 1)」を挙げることができる (年間約 15 件程度を掲載)。発刊に際して森典彦元会長が巻頭で述べた内容をご覧いただければ, 「学会作品」としての独自性が理解できるので, 以下に掲載する。

「… デザインは人間生活に伴う多様な要求に対して具体的な造形表現によって応えようとするものである。したがってデザインに関わる研究は理論の追求のみならず設計・制作として実際に具体化されてはじめて意義が達成されるといえる。デザイン学研究においては理論の研究と実際の設計・制作はいわば車の両輪であるとし, この立場から前者の論文集に対して後者の作品集を位置づけるものである。したがって, 作品集は単に優れた作品の結果だけを集めたものではなく, デザイン実現化の過程でどんな研究・開発あるいは思考プロセスがあったかも発表することによって, 研究論文集と相通ずる性格をもつものにしようとし, 審査・選定に当たってもこのことに意を用いてきた…」(デザイン学研究作品集 Vol.1, No.1, p1, 1995)

□ 年次大会の開催:

春季大会:

研究発表大会で, 多様なデザイン分野の研究・実践が 200 件以上報告される。また, 特定テーマに基づくオーガナイズドセッション・テーマセッション・学生ワークショップなどを通して, 会員相互の研究交流を促進している。前回大会の発表区分を以下に示す。

□ 一般発表区分:

デザイン史, デザイン教育, 形態・構成, デザイン方法論, デザイン評価, デザイン計画, デザインマネジメント, デザインシステム, 感性工学, 人間工学, 材料計画, ファッション, 情報デザイン, CG, インタフェース, グラフィック, タイポグラフィ, 環境デザイン, 景観デザイン, 建築・インテリア, 家具・木工,

地域振興・地域研究

□ テーマセッション：

震災とデザイン，地域社会と情報デザイン，社会に関わる創造性 メタデザイン，ユーザビリティ，ユニバーサルデザイン，サービスイノベーションデザイン，子どものためのデザイン，デザイン科学の枠組みとタイムアクシスデザイン，形態論と創発デザイン，感性デザインと情緒デザイン，ロバストデザイン，医療・医用機器とデザイン，伝統的資源の現在学

□ オーガナイズドセッション：

演習課題から探るデザイン思考の特質，つなぐ 環境デザインがわかる，キッズデザインの展開

秋季大会：

特定テーマ（下記）に関する情報共有や交流促進を目的としたシンポジウム形式の企画大会。

デザインに何ができるか 1995.1.17~2011.3.11~，これからのモノづくりとデザイン，デザインから発想されたロボットたち，地域再生デザイン学の実践と構築

### 3. 他学会との連携

21世紀に入って，国際化，都市化，科学技術に対する不信心・不安感，環境問題等々に起因する様々な社会問題が表面化・深刻化している。持続可能な成長を阻害するこれら諸問題は，人工物単独の次元を超えてそれを取り巻く様々な要因が複雑に錯綜していることは明白である。そこで「設計」や「デザイン」の領域においては「領域横断的な知識」と「多様なコラボレーションによる新たなアプローチ」が必要との認識から，関連6団体（日本機械学会，精密工学会，日本設計工学会，日本建築学会，日本デザイン学会，人工知能学会）で「Design シンポジウム」を組織している（隔年開催）。昨年（Design シンポジウム 2012）は日本建築学会が幹事学会となり，京都大学において100件を超える研究成果が報告された。

### 4. 海外他学会との交流

海外他学会との連携は，平成8（1996）年中国・北京で開催されたアジアデザイン国際会議に端を発する。平成15（2003）年には日本感性工学会・日本学術会議との共同主催で，第6回アジアデザイン国際会議をつくば国際会議場において開催した。この大会において，さらなる国際交流が必要との認識で共同宣言を採択し，平成17（2005）年に〔韓国デザイン学会（KSDS），台湾デザイン学会（CID），英国を拠点とするデザイン研究会（DRS）・設計工学会（DS）〕と共に〔国際デザイン学会連合：International Association of Societies of Design Research（IASDR）〕を組織し，隔年で国際会議を開催し今日に至っている〔2005（台湾，雲林），2007（中国，香港），2009（韓国，ソウル），2011（オランダ，デル

フト）〕。

本年8月開催予定の5<sup>th</sup> IASDR 2013（日本感性工学会・日本学術会議と共同主催）は「Consilience and Innovation in Design: デザインにおける知の統合と革新」をメインテーマに掲げ，感性価値創造技術，サービスデザインの理論と実践，デザインマネジメント，デザイン哲学，デザインの歴史と文化，生理学・心理学・物理化学などの基礎科学とデザイン・感性工学の統合等々を主要題目とし，デザイン学研究の発展と応用展開を図ることを目指している（<http://www.iasdr2013.jp/>）

### 5. 展望

デザイン学は，製品・環境・サービスなど，人間生活に関わるあらゆる要素と人を繋ぐ要素を研究課題とし，歴史，哲学，心理，生理，情報，設計など多くの科学的研究を統合して問題解決に当たる，まさに知の横断的統合をもって構成される学問体系である。特に現在では，感性工学やサービス工学，認知科学，生活科学などの複合的学問分野と相互に関係しながら研究が展開されている。その成果は，ヒューマンセンタードデザイン，サステナブルデザイン，エクスペリエンスデザイン，サービス&プロダクトデザイン，キッズデザイン，タイムアクシスデザインといった複合的かつ多様な人々のQOLに寄与するモノづくり・コトづくりに貢献している。

当学会は今年で創立60周年，還暦を迎える。設立当初は世界で唯一の理論研究団体として世界各国から注目を集めたが，現在では前述したアジアや欧米諸国にも同様の組織が誕生している。文理融合を目指して設立された当学会であるが，学際領域を標榜している割には産官学の一体化が必ずしも満足のゆく状態にあるとはいえない難く，数々の課題も山積している。

学会活動が拡大路線に転じて約30年，永年の悲願であった科学研究費補助金が3年間の時限付き分科細目を経て，今年度から総合系・複合領域の中に「デザイン学」として新設が認められた。これを機会に，理論と実践，実学としてのデザインがさらに発展していくことを願う次第である。

---

#### 青木 弘行



1947年6月27日生。72年千葉大学大学院工学研究科工業意匠学専攻修了。88年工学博士（東京大学），94年千葉大学工学部工業意匠学科教授。現在，材料計画・工業デザイン・感性工学の教育・研究に従事。大学評価・学位授与機構造形工学・芸術工学部会主査／大学機関別認評価部会専門委員，日本技術者教育認定機構（JABEE）認証評価委員，全国発明表彰選考委員会意匠専門部会副部会長，機械工業デザイン賞（日刊工業新聞社）専門審査委員会代表。日本デザイン学会賞，1st International Design Competition / Special Award 等を受賞。日本デザイン学会前会長（2008~2011）。

---